

「初期ゼミ」改善のために

—アンケート集計結果報告—

教育学部学務委員会*

(2002年3月20日受理)

Committee of Educational Affairs

Faculty of Education

Toward the Improvement of the Introductory Seminar:

A Brief Report of Replies to Questionnaires

1. はじめに

初期ゼミは、平成12年度から開講された新しい授業科目で、平成12年度の学部改組及び全学共通教育(教養教育)の全面改定と連動して導入されたものである。導入が決定されてから、この科目の内容や実施方法については、学部の旧カリキュラム委員会等を中心に多くの時間をかけて議論してきた。

初期ゼミの目的及び特色は、次のような点にあると考えられる。

- ・大学に入学したばかりの学生を対象に、大学における学習の在り方を認識させ、勉学についての意識改革を促す。
- ・岩手大学及び教育学部における学び方を習得させる機会とし、学習意欲を高める。
- ・少人数ゼミの中で、教官・学生との交流を深めるとともに、発表・討論等を通して自主的学習態度を養う。
- ・大学の初期教育として、文章の書き方など日本語の表現力向上につなげる。

この初期ゼミを実施して2年が過ぎた。この段階でこの2年間の取り組みを振り返り、今後の改善・発展につなげていくことは意義のあることと思われる。この意味から、本報告では、初期ゼミ終了時にすべての受講学生及び担当教官を対象にとった2年間(平成12年度および13年度)のアンケートの集計結果を、改めて掲載することとした(これらのアンケートについては、それぞれ教授会で報告済みである。)。本報告が、今後初期ゼミを担当される教員のご参考になれば幸いである。

*岩手大学教育学部

2. 「初期ゼミ」のシラバス

(項目は、インターネット「教育学部履修要項」による。)

授業科目名：初期ゼミ

担当教官：教育学部教官

対象学生学科：教育学部全課程

対象学生年次：1年次

選択必修：必修

基礎専門：初期教育科目（専門）

開講学期：前期

単位数：1単位

授業の方針：

大学での勉強を始めるにあたって、大学で学ぶことの意味や、大学での学び方とはどんなものなのかを考え、知ることは大切である。初期ゼミでは、新入生のためのオリエンテーションを行うとともに、あるテーマについての発表・討論などを通して勉学への動機づけをすることを主な目的としている。また、日本語の表現力を向上させる機会ともなると考えている。

新入生の皆さんにとって、この初期ゼミが、「岩手大学で、しかも、教育学部で、何をどのように学ぼうとするのか」を自覚する重要なワンステップとなることを期待する。

授業の概要：ゼミ毎に異なる。

授業計画：ゼミ毎に異なる。

テキスト、教材、参考書：ゼミ毎に異なる。

授業の形式：少人数クラスでの演習。

成績評価の方法：出席およびレポート等を重視する。

履修にあたっての留意点：

- ・初期ゼミは1年次で履修してこそ意義のある科目であるので、1年次の必修とする。
- ・30余り開講されているゼミの中からの選択履修となる。ただし、希望が偏った場合、必ずしも希望するゼミを受講できるとは限らない。

3. 「初期ゼミ」アンケート結果

回収率

学生	12年度	120 (47%)	13年度	123 (48%)
教員	12年度	17 (55%)	13年度	20 (66%)

学生アンケート項目と結果および意見等 (12年度/13年度)

項目① あなたが受講したゼミは「授業の方針」に合っていたでしょうか。ウ、エの場合は、その理由もお書きください。

ア	よく合っていた	(31%/33%)
イ	まあまあ合っていた	(58%/57%)
ウ	あまり合っていなかった	(9%/9%)

エ まったく合っていないかった (2% / 1%)

<12年度>

- ・先生の固定観念によるやり方。
- ・数学の力を見ているだけで、わからない人のことをわかっていない。
- ・発表・討論といえる授業内容でなかった。
- ・発表・討論などほとんどやっていない。
- ・一般的に学ぶことであって、岩手大学で学ぶこと、学びたいことへの意志を深めるまでに達しなかった。

<13年度>

- ・発表・討論の機会がなかった。
- ・シラバスの内容と違っていた。
- ・先生の話の時間が多かった。
- ・自分の希望した分野ではなかった。
- ・本を強制的に読ませて感想を求めるのはどうかと思う。

項目② あなたはゼミに積極的に参加できましたか。ウ、エの場合は、その理由もお書きください。

ア 積極的に参加できた (33% / 46%)

イ 普通 (55% / 48%)

ウ あまり積極的でなかった (10% / 6%)

エ まったく積極的でなかった (2% / 0%)

<12年度>

- ・苦手なゼミに当たった。
- ・やるべきことがいまいち不明確だった。
- ・資料を調べる時間が余りなかった。

<13年度>

- ・第1, 第2希望を外されたため、やる気が起きなかった。
- ・自分の希望したゼミに入ることができず、勉強が苦痛だった。
- ・レポート提出が多すぎて、中途半端な授業になった。
- ・形式が発表という一方的なもので、討論と意見のやりとりがなく、途中からつまらなくなった。
- ・先生の話し方や態度がいやでした。
- ・休んでしまった日が多かった。
- ・第3希望だったので少しがっかりしたけど、力を入れて頑張ることができた。

項目③ クラス編成はどれがよいでしょうか。理由もお書きください。

ア 課程・コースの区別なく (94% / 95%)

イ 課程ごと (5% / 3%)

ウ コースごと (1% / 2%)

<12年度>

- ・他課程の人と知り合いになれる、いろいろな刺激がある、視野が広がる。(多数)
- ・(課程ごとにして) その課程に関することを学ぶべき。

- ・授業のレベルが高く、ついていけないから、コースごとがよい。
- ・同じ目的を持ったもの同士の方がよい。

<13年度>

- ・区別のない方がいろいろな人と触れあうことができる。(多数)
- ・区別のない方が幅広い意見が聞け、知識がひろがる。(多数)
- ・課程ごとだと希望通りのゼミに入れない。
- ・各個人が自分の好きなゼミをやるべき。その方が参加意欲がわく。
- ・知らない人の方が、気を使わないですむ。
- ・コースごとの方が、専門的な授業をすることができる。
- ・やりたいゼミが決められた曜日になかった。
- ・曜日を指定した理由がよくわからない。

項目④ 希望の取り方についてどう思いますか。意見もお書きください。[希望の取り方は、12年度は30番まで、13年度は10番まで。]

- | | |
|----------------|-----------|
| ア 今回のでよい | (14%/29%) |
| イ 今回のでやむを得ない | (60%/43%) |
| ウ 別の方法で希望を取るべき | (26%/28%) |

<12年度>

- ・30番まで順位を付けさせる必要はない。(多数)
- ・もう少しわかりやすい内容で希望を取って欲しい。
- ・ゼミの説明が見づらく決めにくいで、ジャンルなどに分けた方がよい。
- ・希望を尊重して欲しい。

<13年度>

- ・希望順位を少なくしてほしい。(多数)
- ・10番では多すぎる。5番くらいでよい。(多数)
- ・10個も選ぶのはすごく大変なのです!!
- ・曜日指定の金曜日は11個しかないのに、第10希望までって、何?
- ・10番まで希望を取ると、後半のものが興味のないものや嫌なものになってしまう。せっかくやるなら、積極的に取り組めるものがない。
- ・あまりクラスの人数を考えずに編成した方がよい。
- ・似たものの違いがわかりにくかった。大学でランダムに割り当ててよい。

項目⑤ 受講生数についてどう思いますか。理由もお書きください。[受講生数は12年度は7~10名、13年度は5~10名。]

- | | |
|--------------|-----------|
| ア ちょうどよい | (92%/92%) |
| イ もっと少ない方がよい | (1%/0%) |
| ウ もっと多い方がよい | (7%/8%) |

<13年度>

- ・先生の話の聞いたり、討論したりするのに、ちょうどよい。(多数)
- ・とけ込みやすく、ともだちと仲良くなれる。(多数)

- ・もっと多すぎると普通の授業だし、少なすぎるとちょっと緊張する。
- ・多人数だと発言しにくいですが、少人数だと議論が活発になって、おもしろかった。
- ・これ以上だとみんなと友達になれないし、少なすぎてもさみしい。
- ・もう少しいろんな人と知り合いになれた方がよい。
- ・少ない人数でのディベートは大変。もっと多い方がよい。

項目⑥ 初期ゼミでとりあげてほしいテーマや活動を書いてください。

<12年度>

- ・教室で討論しているだけでなく、実際に体を動かす活動であれば、発表・討論もしやすい。
- ・遊びのなかで学べればとてもよいと思う。

<13年度>

- ・講義だけでなく、見学に行ったり、作業や体験をさせてほしい。
- ・小学生など、実際に子どもと触れあえることがしたい。
- ・もう少しテーマをしぼって設定してほしい。
- ・専門分野をもっと取り入れてほしい。
- ・具体的テーマ（提案されたもの）

野外活動、教室外授業、スポーツ関係、キャンプ、散歩や探検、岩大散策、障害児との触れあい、福祉、自然や動物とのふれあい、ものづくりや職人の世界、国際協力、海外の出来事（政治、音楽、飢餓など）、授業体験や模擬授業、絵本を使った教育、数学関係ゼミ、実験、人間の精神や心、少年少女による犯罪、大学生活と学び、ボランティア活動、教員採用

項目⑦ 感想あるいは意見を自由にお書きください。

<12年度>

- ・私の初期ゼミの内容は、教師を目指す人全員に是非受けてもらいたいほど役に立つ。
- ・クラス分けする際、男女比を考えて欲しい。
- ・数学が苦手な人や嫌いな人が、数学を初期ゼミでやってもうまくいかない。
- ・あまり差がないゼミにするべき。
- ・活動的なものを増やしても良いのでは。
- ・レポートばかりでつまらない。
- ・テストはやっても意味がない。授業だけで評価をつけるべき。

<13年度>

- ・少人数で楽しかった。いい思い出ができた。(多数)
- ・学ぶことが多く、充実していた。役に立った。(多数)
- ・初期ゼミの授業方針がとてもすばらしいと思う。入学して何も分からないときに、大学での勉強の仕方やどんなことを学ぶか教えてくれるし、ゼミで友だちも増えたし、先生といろいろ雑談もできた。
- ・本を読む機会を与えられてよかった。文章を要約する力も少しついたと思う。
- ・充実したゼミだったので、後期も続けてできればもっと深められると思う。
- ・講義だけでなく、探検したり、会を開いたりして、総合学習のようで楽しかった。
- ・ゼミの仲間と今後も学習会を開くことが決まり、大学での勉強の第一歩になった。

- ・ゼミによって内容の難易度が違いすぎる。ただ出席していればいいものもあれば、毎回多くの宿題が出されるものもあり、不平等だと思う。遊ぶだけのものと、まじめに講義してるものの差がありすぎる。(複数)
- ・差が激しすぎるので、そういうのなくして下さい。
- ・内容に苦楽の差がある。課題がまったくないゼミや、教育とは程遠い内容をしていると思われるゼミがある。
- ・授業のようなのでなく、すべてアドベンチャー系のテーマにすればよい。その方が楽しく、友だちも増えるし、自分の会話力がわかる。
- ・もっと生徒同士の時間を増やして、共通のテーマに沿って討論や活動をしてほしかった。
- ・もう少し読みやすい本を読みたかった。
- ・他のクラスではどんなことをしているのか知る機会があればいいと思う。
- ・本を強制的に読ませて意見や感想を求めるのは検討すべきだと思う。もっと自由に学習したい。
- ・もっと大学に親しめるような内容を期待していたが、ちょっと違った。
- ・先生が高圧的すぎて腹が立った。
- ・先生の態度最悪。自分ではフランクなつもりなんだろうけど、人の意見は全面否定だし....。
- ・CSルームの自由使用時間の時さわがしいことが多いので、何とかしてほしい。

教員アンケート項目と結果および意見等 (12年度/13年度)

項目① あなたのゼミは「授業の方針」に合っていたでしょうか。ウ、エの場合は理由もお書きください。

- | | |
|----------------|-----------|
| ア よく合っていた | (7%/20%) |
| イ まあまあ合っていた | (52%/70%) |
| ウ あまり合っていなかった | (41%/10%) |
| エ まったく合っていなかった | (0%/0%) |

<12年度>

- ・日本語の表現というよりは、絵やイメージ、デッサンによる表現を中心にした。

項目② 欠席の多い学生はいましたか。アの場合、理由は何だと思えますか。

- | | |
|-------|-----------|
| ア いた | (12%/15%) |
| イ いない | (88%/75%) |

<13年度>

- ・つまらなかったから。
- ・知的好奇心の欠如。

項目③ クラス編成はどれがよいでしょうか。理由もお書きください。

曜日指定についてもご意見をお書きください。[13年度のための質問項目。]

- | | |
|---------------|-----------|
| ア 課程・コースの区別なく | (69%/70%) |
| イ 課程ごと | (6%/20%) |
| ウ コースごと | (25%/10%) |

<アの理由／13年度>

- ・どの課程・コースであっても、初期に大学で学ぶべきこと、学び方、考え方などは、共通の部分がある。いろいろの学生と一緒に学ぶ機会はこのゼミ以外にはあまりない。学生間の交流やさまざまな得意分野の学生とコミュニケーションの場となりうるのは意義深いことではないか。
- ・対象学生の属性は一定でない方が指導しやすい。授業の方針に対して普遍的、一般的内容を多く組む必要があり、課程・コースごとに比べて専門的に偏ることに注意しなくてすむ。
- ・多様な志望の学生が同じクラスに集まることは、学生たち自身の今後の大学生活のためによいことであろう。
- ・興味・関心の多様な学生のクラスでの討論により、学部としての勉学の方向付けが可能となる。
- ・クラスの定員バランスの問題はあるが、初期ゼミの方針に照らせば、あえて区別せず、多様な学生が集う方がよい。
- ・共通科目的な性格付けでよい。
- ・お互いが知り合ういい機会となる。
- ・目的からして「そう」あるべき。

<イの理由／13年度>

- ・同じテーマで授業の内容を組むことができる。
- ・目的意識がある程度一致していることが望ましい。
- ・複数の課程・コースが混じったクラスだったが、多数コースが固まってしまい、全体を統制するのが難しかった。
- ・学生が教員を志望しているかどうかということが、教職について話題として取り上げるかどうかということと関わってくるため。

<ウの理由／12年度・13年度>

- ・別のコースの学生が入ると専門用語の解説が必要になり進まない。
- ・各専門分野の方が、より突っ込んだ内容で話題を提供できる。
- ・専門に無関係なテーマについて、教師として「ゼミ」を行うことは可能なこととは思えない。
- ・学生に共通の意識を持たせやすいから。
- ・やはり勉強するための動機が違うから。

<曜日指定についての意見／13年度>

- ・曜日指定は必要。(複数)
- ・曜日指定は不必要。(複数)
- ・金曜日午後がよい。
- ・人数が少ない場合、曜日を指定しなくてもよい。
- ・ある曜日に偏らない配慮は必要。
- ・週末の最後の時間帯は、まじめに勉強する気にならない学生や、疲れ果てている学生が多かった。

項目④ 受講生数についてどう思いますか。理由もお書きください。[受講生数は12年度は7～10名、13年度は5～10名。]

- | | | |
|---|------------|-------------|
| ア | ちょうどよい | (81% / 89%) |
| イ | もっと少ない方がよい | (19% / 11%) |
| ウ | もっと多い方がよい | (0% / 0%) |

<13年度>

- ・毎時間全員に発言させ、適度の緊張感の中のプレゼンテーションに慣れるという経験を持たせることができた。多すぎると無責任になり、少なすぎるとなれ合いになりがち。
- ・少数だったことで、教師と学生または学生同士の意見交換の密度が濃くなり、学び方や内容を深めることができた。
- ・この程度の少数クラスの方が、学生と教官、学生相互の交流が深まり、一体感が深まる。
- ・コミュニケーションの機会が多くなり、ちょうどよかった。
- ・レポートのコピー量や討論や発言の機会の確保からみて、8人程度が望ましい。
- ・多人数だと意見発表等の時間が少なくなる。5人程度が望ましい。
- ・少人数だとフィールド調査が可能。

項目⑤ ゼミで工夫した点を紹介してください。[13年度の質問項目。]

- ・学生が気兼ねなく発表したり、質問したりできる環境づくり、雰囲気づくりをした。
- ・学生の希望を取り入れ、実技にも取り組んだ。理論と実習の関係を結びつけて講義した。
- ・フィールドワークの時間を1/3程度組み込み、座学ではない雰囲気の中で自由に言い合える関係づくりを考えた。
- ・学生相互間の友好的雰囲気をつくるように努力し、一泊二日の合宿を行った。
- ・受講生に学内各施設（図書館など）の見学と説明を受けさせ、課題を出して小レポートの資料検索をさせてみた。熱心に報告・発表を行い、知らず知らずに大学に慣れたようであった。
- ・現場での実践をできるだけ視野に入れたものとするため、授業VTRの視聴、公立小学校の授業参観を行った。教育の在り方を考えるために重要なものとして、養護学校の参観も行った。
- ・多量の文献、本、論文を準備し、読むことの意義を強調した。その内容をレポートする方法、全員が討論に参加する方法なども工夫した。
- ・岩手大学のハード面（建物、施設）や立地条件（周囲の市街地も含めて）を総体的に紹介した。
- ・絵で記録やコミュニケーションをすることを重点にした。絵を描くことにはじめ抵抗のあった学生も、慣れてよい絵を描いていた。
- ・各自に独自のテーマを発見させ、リサーチさせ、発表させ、議論させるスタイルで、自発性を切りひらくことができるよう工夫した。
- ・なるべく論理的な思考や読解の力をつけさせるような練習をした。
- ・学外での実習を行った。
- ・ノートの取り方でヴィジュアルな工夫を試みた。
- ・視聴覚資料を多用し、学生の興味・関心に対応する内容になるよう努めた。
- ・大学での勉強の積極的な動機付けとなるように配慮した。
- ・現代的な応用数学の話やゲームなどで工夫した。
- ・数学とあまり関係なさそうなもので数学的な考え方の基本を見直してもらった。
- ・1回の授業で1人1回は話をさせるように指名した。
- ・身近なテーマで、読む、聞く、話す、書くことなどを学ばせようとしたが、なかなか気持ちをそちらに向けていくのがむずかしかった。

項目⑥ 感想あるいは意見を自由にお書きください。

<12年度>

- ・自分の専門外についての知見をもとに、受講生を引き込める授業ができるかどうか、自己の教授力を試せる良い機会となる。
- ・専門を噛み砕いて話をするだけで初期ゼミの主旨ではない。
- ・学生（1年生）は情報不足（書籍、新聞を読んでいない）なので、容易に教育関係の情報が得られるスペースを学部内につくり、初期ゼミでも活用できるようにする。
- ・「授業の概要」を学生が読むときは、合格発表の後で最初に届く大学からの文書に入っているもので、真剣に読む。それにしても「授業の概要」に書かれている文章は劣悪であり、内容がわかりにくいものが多い。教官こそ「日本語の表現力を向上」させるべきである。
- ・「授業の方針」から大きく逸脱するものは困る。学生たちは結構厳しい評価をしているように思う。
- ・1年生から学生と身近に接することは大切だと考えます。

<13年度>

- ・テーマへの関心はたかく、提示した文献以外に積極的に図書館を利用するなど、予想していなかった成果があった。ディスカッションはむずかしい。教員中心の話題の交換になる傾向があった。しかし学部の専門教育を、かいま見たのではないかと感じている。
- ・授業を進行していくうちに最初の計画が少し変更され、一層充実した感じがする。試行錯誤しながらの授業であったが、少人数で学生の実態を把握しやすい講座なので、よかったと思う。
- ・入学したばかりの学生を対象とした少人数の授業をはじめて体験した。授業の形態についていろいろ考える機会となった。
- ・やりがいと学びがいのあるゼミの場を1年生の時から提供することはとても重要だと実感した。
- ・専門に関する話をすることで大学での学び方の生きたゼミになると考えた。
- ・10人中8人が専門で顔を合わせていたので、連携面でもよかった。ただし、異分野での視点が開かれたかについては疑問。
- ・何にせよ最初の動機付けが大切であると知った。
- ・じっくり指導するには時間が短く、中途半端になった。
- ・発表・討論を通しての動機づけは、初期ゼミとして高度に過ぎるかも知れない。
- ・時間帯を変えた方がよい。7・8の時間帯では開館時間15:00までの施設を利用できない。
- ・初期ゼミは、やるのであれば1単位でなく、2単位にすべきである。
- ・第2志望以下の学生に意欲を持たせるのが大変。クラス割りにもう少し工夫がほしい。
- ・ゼミ内容改善のため、記名入りのアンケートにしてもよいのではないか。

4. アンケート結果の集約

<12年度>

- ・学生の多くは「授業の方針」に合っていたと感じているが、担当した教員の半数は合っていなかったと思っている。
- ・学生、教員ともに、クラス分けは「課程・コースの区別なく」が、クラスサイズは「7～10名でちょうど良い」が圧倒的に多かった。
- ・クラス分けする際の希望の取り方に対して学生からの批判が多かった。

- ・教員からは、「担当者に対して事前に初期ゼミの趣旨をきちんと説明し、基本方針を確認し合った方がよい。」「ゼミ担当者間の交流・研究会があれば良かった。」等の意見が複数あった。

<13年度>

- ・「授業の方針」とゼミ内容の関係については、「合っていた」（よく合っていた、まあまあ合っていた）とする意見が、学生にも教員にも圧倒的に多い。
- ・個別のゼミの内容については、学習の難易度等のクラスによる差について不満を述べる意見が学生に目立つ。
- ・クラス編成については、課程・コースの区別なしでよいとする意見が特に学生に目立つ。
- ・曜日指定については、批判的な意見が学生にも教員にも少し見られる。
- ・クラス分けのための希望の取り方については、批判的な意見が学生にかなり目立つ。
- ・1クラスの受講生数については、ちょうどよいとする意見が、学生にも教員にも圧倒的に多い。
- ・希望するゼミのテーマについては、学生に多様な意見がある。
- ・ゼミに積極的に参加することができなかったとする意見が学生に少数見られる。しかし全体的には、ゼミを積極的に評価する意見が、学生にも教員にも圧倒的に多い。

5. おわりに

以上が2年間のアンケートの結果である。アンケートから見る限り、初期ゼミは学生からも教員からも概ね肯定的に受け止められていると考えられる。学生の満足度はかなり高く、教員もさまざまな工夫をして授業に臨んでいることがわかる。しかし、いくつかの点は、今後の課題として残される。たとえば、クラスによる授業内容と難易度の差の問題、曜日指定の問題、第一志望でない科目に所属した学生の指導の問題などである。

実施三年目を迎える来年度は、教育学部教員のほぼ全員が初期ゼミの授業を一度は経験することになる。各自の経験をふまえた上で、問題点についての検討を継続し、初期ゼミ全体のさらなる改善を目指すことが、学務委員会としての今後の課題である。

(文責：平成13年度教育学部学務委員会 村上祐，星野勝利)